



神戸学園都市 ワイズメンズクラブ



THE Y'S MENS CLUB OF KOBE GAKUENTOSHI
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

2021年5月 (通巻323号)

< 主題 >

- ・神戸学園都市クラブ会長：柴田昌一：「みんなでチャレンジしよう」
- ・国際会長：Jacob Kristensen (デンマーク)：「命の川を信じよう (Trust in the river of life)」、スローガン：価値観、リーダーシップ、エクステンション
- ・アジア太平洋地域会長：David Lua (シンガポール)：「変化をもたらそう (Make a difference)」
スローガン：奮い立たせよう
- ・西日本区理事：古田祐和 (京都トウビー)：「Let's do it now,
2022に向けて誇りを持って All is well」
- ・六甲部長：安行英文 (さんだ)：「行動に信念を、信念は行動に」
Believe in what you do. Do what you believe in.
- ・2021年5月強調活動：LT：鵜丹谷 剛 ワイズリーダーシップ開発委員長 (神戸)
「リーダーシップを学んでください！クラブ・部・区など、あらゆる機会にリーダーシップの学びの場があります。全てを有意義に捉え、スキルアップをして、リーダーシップを身に付けてください。」

5月 第1例会

- ・日時：2021年5月20日(木)18:00～
- ・場所：西神戸YMCA
- ・内容：「自分自身でできる健康法」
講師 辻本邦子ワイズ

< 今月の聖句 >

「地は混沌であって、
闇が深淵の面にあり。」

(創世記 1章2節)

5月誕生者 おめでとう！

- ・櫻井英治メン (5/7)

4月の出席状況

第一例会 9名
ゲスト 2名
事務例会 9名

7月～ 累計ファンド

- ・CS(年賀切手) 6,750円
- ・TOF(断食) 6,300円
- ・FF(家庭の断食) 3,600円
- ・BF(古切手) 6,750円
- ・災害支援金 21,000円
- ・Yサ・ASF 30,000円

[役員] 会長：柴田昌一、直前会長：杉本隆人、書記：杉本隆人、
会計：中村 剛、連絡主事：櫻井英治

[委員] 地域奉仕・環境：内田邦彦、Yサ・ユース：森本哲男、交流：隠樹圭子、ファンド：丹家元陽、仁科拓巳
EMC：藤井久子、広報・ブリテン：田辺征一、メネット：合田洋子、メール委員：田辺征一、

[西日本区役員] JWF 委員：杉本隆人

[IBC] 台湾高雄ポートクラブ (2004年1月締結)

[DBC] 東京武蔵野多摩クラブ (2011年6月締結)

[DBC] 岡山クラブ (2018年6月締結)

神戸学園都市クラブ 〒651-2102 神戸市西区学園東町2-1-3 TEL 078-793-7402 FAX 078-793-7470
事務例会：第1木曜日、第1例会：第3木曜日、クラブホームページ

<http://www.kobeymca.org/ys/gakuen/bulletin.html>

<4月例会報告>

日時：2021年4月15日(木)18:00~19:30

場所：西神戸YMCA多目的室

出席：櫻井、柴田、杉本、田辺、丹家、辻本、
仁科、野呂、森本

ゲスト：矢田俊彦、寺脇英志

矢田俊彦さんは、医学部の統合生理学部門の教授として人間の生理・代謝の研究をされてこられ、現在は関西電力医学研究所統合生理学センター長・神戸大学医学研究科客員教授として糖尿病、肥満、老年医学の発展に日々取り組んでおられる。

今回は「差別（人種・性・年齢）から共存・共作へ 一超高齢化・コロナ後の世界に向けて」と題して、現代社会が抱える様々な問題を熱く語っていただきました。

度重なる緊急事態宣言のもと日常生活は変容し、多くの人々が巣ごもり状態に陥っています。そんな中で大切なことは個人的な楽しみを見つけることで、それがないと人は真の意味で生きられません。

新型コロナまん延の中、有色人種への差別的行為が先進国で頻発している。大坂なおみは被害者の名前入りのマスクを着用し「私はアスリートである前に一人の黒人女性。テニスを見てもらうより大事な問題がある」と抗議を続けた。オリンピック組織委員会会長の女性蔑視発言は、日本風土に今もある女性観を暴露した。日本は世界男女平等ランキング121位です。

2035年、わが国は人口の約1/3が65歳以上という超高齢化社会に突入しようとしている。にもかかわらず、定年という線引きが依然として強く、あらゆる面で高齢者は冷遇されている。例えば、民間研究助成金の採択率は60歳を過ぎると急減し、定年後はほぼゼロとなる。また、年齢別賃金カーブは55歳から賃金低下が始まり、それ以後、他の先進国と比べて急激に低下する。これからの少子高齢化社会では、高齢者の働きがないと産業・経済・教育・医療などが崩壊していくことが危惧され、経験と技能のある健康な高齢者が働ける場を作ることが希求される。

そのためには、高齢者が健康であることが必要で、フレイル（健康と要介護の中間にある状態で、運動機能や認知機能が低下する）にならないことが必要である。現在、男性72歳・女性

74歳の健康寿命をいかに長くするかにかかっている。フレイル移行への症状として体力低下、疲労倦怠、食欲不振、体重低下などがあるが、矢田さんは漢方薬の人参養栄湯がこれらに効果のあることを長年の研究により明らかにされた。

以上、コロナ禍から見えてきたのは、人種・性・年齢の違いを超えた者同士が共存し、協力して作っていく共作の社会ではないでしょうか。
(田辺征一)



矢田俊彦さん

<5月事務例会報告>

日時：2021年5月6日(木)18:00~19:00

場所：西神戸YMCA

出席：内田、櫻井、柴田、杉本、田辺、丹家、
中村、野呂、

—報告事項—

- (1) 神戸YMCA 創立135周年記念礼拝 ZOOM
5月8日(土)14:00~15:00 出席：杉本、田辺
- (2) 次期六甲部準備会 ZOOM
5月15日(土)15:30~17:00、出席：田辺
- (3) 神戸西クラブ創立60周年記念礼拝 ZOOM
5月15日(土)14:00~15:00、出席：田辺
- (4) 第24回西日本区大会 ZOOM 6月5,6日
ウエスティン都H

—協議事項—

- (1) 5月第一例会 5月20日(木)18:00~
19:30、西神戸YMCA
「自分で出来る健康法」辻本邦子ワイズ
- (2) 6月事務例会 6月3日(木)
18:00~19:00
- (3) 6月第一例会 6月17日(木)
会長交代式、その他未定

—YMCA報告—

- (1) 神戸YMCA 創立135周年記念礼拝 ZOOM
5月8日(土)14:00~15:00
- (2) 神戸YMCA 大会 ZOOM
6月26日(土)14:00~16:00

< タケノコ狩り >

桜の花も春の嵐で散ってしまった土曜日の午後、丹家ワイズからタケノコ狩のお誘いを受け、生れてはじめてタケノコ堀を経験しました。参加者は元ワイズの佐伯さんを入れて6名。学園都市駅から北へ2kmほど行った小高い丘に到着。そこは全山が竹林。早速、ツルハシをかついで登り始めるとすぐに丹家ワイズから「ほら、そこに!」「ほら、あそこに!」と言われてもタケノコの芽がどこに出ているのかわからない。しかし、土を取り除くと、芽が顔を出してくる。まわりの土を取り除くと、先端がわずかに曲がっているのがわかる。曲がった内側の根元に刃をあててグイと掘り起こす(写真参照)と本体が飛び出してくる。1時間ほどで大漁。新米の私も帰るころには、地中に隠れた芽も見つけられるようになり、ハンマーの扱いも様になってきたかな?! 最後に、山上の丹家神社に収穫のお礼をして下山。

翌日には、おいしいタケノコ飯とタケノコの煮つけをいただきました。 感謝 (田辺征一)



タケノコの頭が見えてきました。ここからシャベルで一気に掘り起こす。



大漁だ!大漁だ! エイ・エイ・オー !!

< 5月の聖句 >

「地は混沌であって、闇が深淵の面にあり。」

(創世記 1章2節)

ある時、大学の評議員会・理事会が一日中ありました。厳しい話の連続にちょっと疲れてしまいました。会議の隣席には、テレビ局のディレクターがおられ、休憩時間に海外ロケの話をお聞きしました。それは砂漠の話で、カメラマンと2人でテント生活をしながら撮影していたそうです。夜は焚き火の火以外は何もなく、トイレをするときは石を投げながら場所を探したそうです。野獣がいるかもしれないからです。ある時はライオンに見られていたというのです。その話をイキイキとしてくださいました。暗闇の中の沈黙が忘れられないと。そしてまさに神様をそこに感じたと。その話を聞きなが不思議と元気をいただきました。

創世記のはじめに「闇が深淵の面にあり」とあります。この闇の中に神様のみ言葉は響きその存在を感じます。いまコロナ禍の混沌な闇の中で、人は何を求めるのでしょうか。いまこそ神様に会えるチャンスかもしれません。現代の闇のなかにこそ神様がおられると思います。

西日本区チャプレン 立野 泰博 (熊本ジェーンズ)
西日本区理事通信2021年5月号から転載